

三十一、金色のタイムカプセル (後編)

前編では経塚が納められるようになつた背景について解説しました。今回は篠栗町向ノ山(若杉区)で発見された経塚にまつわる話をしてみたいと思います。

【向ノ山経塚の発見】

篠栗町誌には(要約すると)
・昭和四十八年(一九七三)向ノ山の碎石工場で採掘中、山頂から発見された。

直径一・四㍍、深さ〇・八㍍程の穴に埋納されてい

たと推定される。

穴の中には川原石が敷き詰められ、その中に木炭を置き瓦製の容器の中に青銅製の経筒が納められていた。

穴は雨水の侵入を防ぐため粘土で封印されていたが、盛土はほとんど目立たない。

できるかもしません。

高さは約三十六㌢になります。厚みは一~二ミリ程度しかなく、非常に精巧に作られたものです。(納められていた経典は残念ながら出土していません)

(三)白磁・短刀

この他に経筒を納める時に供物を捧げたと考えられる白磁皿が五点出土し、いずれも中国から輸入されたものです。短刀は二点出土していますが、他の経塚でも発見されることが多く、魔除けの意味があるのではないかとされています。

この向ノ山経塚について重要な点をまとめると、一つは、経塚は各地で発見されていますが、年代が実証されている例が少なく、このように年代がある程度推測できる資料であつたこと。二つ目に、青銅製の二段積上式経筒も各地域で見られるものですが、現在までにこの経塚出土経筒と同様の形のものが国内を見ても他に存在せず、一点しかないこと。また、二段積上式経筒の中でも最古の例に該当すること。

以上のことから向ノ山型式というものが将来設定

と当時の内容が詳しく記されています。これらの記述から山頂付近に経塚が安置されていたことが判ります。

【経筒】

向ノ山経塚からは様々な資料が出土しました。

(一)外筒容器

発見記事では瓦製となっていますが、土師製です。高さ約四十㌢、口の広さ約一十二㌢で、丸い筒状のものに蓋が備わっています。この外筒容器は発見 당시すでに割れて大部分を失っていますが、「保安元年」(一一二〇)と推測できる年号が刻まれています。この経塚が築かれた年代が判る貴重な資料です。

(二)経筒

外筒容器の中には青銅で铸造された経筒が納められていました。筒を二個作つて重ねることから「二段積上式経筒」と呼ばれるものです。本体の口の広さは約十一㌢の円筒で、台座が付けられています。本体中央には「鑑」と呼ばれる帶状のものも見られます。蓋には宝珠を模つたものが付けられており、経筒の

岳信仰の成り立ちを解明する上でもたいへん貴重な意味を備えており、平成十八年(二〇〇六)二月一日に町指定文化財となりました。

現在まで伝えられた経筒は、綠銹によつて本来の色を失つてはいますが、その一部にわずか数ミリながら、製作された当初の金色の輝きを放つ部分があります。当時の人々はこの金色の経筒に何を願いながら納めたのでしょうか。開封までにはまだ早かつたと言われるかもしれません。そんな思いを浮かべながら、この「金色のタイムカプセル」を歴史民俗資料室で見学してみませんか。